

「国際化の 視座からの 日本研究」

日本―フィリピンの国際文化交流は、2006年の日比国
交正常化50周年という外交の場から始まり、2014年度マ
ニラにて開催した国際会議「グローバル時代における日本
文化発信力強化研究―日本の文化外交における交流媒体
としての能―」を10年目に向けての成果発表とした。

この研究が継続性を維持出来たのも、フィリピン大学、
日本女子大学、静岡文化芸術大学の信頼に支えられた連
携体制があったからと認識している。

また、横浜国立大学とフィリピン大学との間のJASSO
留学生交流支援制度SSSV(グローバルスタディーズ・プ
ログラム)による両国間の学生交流も、この研究を教育面
から支えた。比喩的に換言すれば、世阿弥の「離見」(りけ
ん)が舞台空間を抜け出て、国境を越えた逆照射の概念と
して機能したものとなるだろう。

パフォーマンスは来年2月マニラにて世界初演の新作能の部分的紹
介及びその他のインターカルチュラルプレゼンテーションを予定し
ている。

A Shinsaku Noh Staging of Ericson Acosta's Monumento, a
play on the life of Andres Bonifacio.
作／演出:Amparo Adelina Umali, III.

とき

2015年12月5日(土)
13:30～17:30(12:30開場)

ところ

日本女子大学目白キャンパス
新泉山館1F大会議室

現代劇 Italian Restaurant
(ローマアゴラ劇場)

フィリピン大学 静岡文化芸術大学 日本女子大学 連携事業

国際化の 視座からの 日本研究

とき

2015年12月5日(土)
13:30~17:30(12:30開場)

ところ

日本女子大学目白キャンパス
新泉山館1F大会議室

司会 田辺和子,Ph.D(日本女子大学教授)

コーディネーター 福田安典,Ph.D(日本女子大学教授)

パネラー

Amparo Adelina Umali三世,Ph.D(フィリピン大学准教授、伝統芸能研究)

Janine Beichman,Ph.D(大東文化大学名誉教授、与謝野晶子研究)

本間生夫,MD,Ph.D(昭和大学医学部名誉教授、呼吸生理学)

小ヶ谷千穂(フェリス女学院大学教授、国際社会学、フィリピン地域研究)

藤田次郎(能楽師一噌流笛方、フィリピン大学客員芸術家)

高田和文(静岡文化芸術大学副学長、イタリア演劇、狂言)

梅若猶彦,Ph.D(静岡文化芸術大学教授、能)

出演

Maria Teresa Jamias

Laureen Lioanag

Jon Philip Noveras

Darren Balolong

Danielle Naomi Uy

細尾まどか(日本女子大学 4年生)



学校法人
日本女子大学



S U A C

■アクセス

- JR山手線 目白駅から 徒歩約15分/バス約5分
- 【都営バス(学05)】日本女子大前行き(直行)
- 「目白駅前」バス停(2)乗車、「日本女子大前」バス停(4)下車
- 【都営バス(白61)】新宿西口行き又はホテル椿山荘東京行き
- 「目白駅前」バス停(1・3)乗車、「日本女子大前」バス停(5)下車
- 東京メトロ副都心線「雑司が谷」駅(3番出口) 徒歩約8分
- 東京メトロ副都心線「護国寺」駅(4番出口) 徒歩約10分

Eメールお問合せ

日本女子大学文学部 福田安典 Email:fukuda@fc.jwu.ac.jp
東京都文京区目白台2-8-1

